

X I 事務室

1 活動目標

東海大学医療技術短期大学 MS シートの中期目標に掲げる次の項目とする。

- ①主体的に学習を継続し、問題意識をもって探求する教育をめざす。
- ②地域との連携を継続し、社会との連携を強める。
- ③管理・支援体制の充実を図る。
- ④国際化時代への対応を目指す。
- ⑤研究活動を活性化し社会へ発信する。
- ⑥教学マネジメント力を向上するための研修会等に参加する。
- ⑦実践的な職業教育を行う新教育機関制度化に関する説明会等に参加する。
- ⑧労務管理・人権問題等の研修会に参加する。
- ⑨自己の業務のスキルアップのためのワークショップ等に参加する。
- ⑩私立医科系大学事務長会が主催する研修会に参加する。
- ⑪施設・設備等の展示会・ワークショップ等に参加する。
- ⑫日本私立短期大学協会実施の研修会に参加する。

2 組織

構 成 員	
事務室長	一野谷 陽一 (副参与)
係長	井上 茂夫 (副主事)、北室 和茂 (副主事)
事務室員	寺村 絵美 (副主事)、柳川 裕恵 (主査)、芹沢 利尚 (主査)、中村 李菜 (職員一級)、非常勤職員 3 名

3 窓口開室時間

(1) 開室時間

曜 日	開室時間
月～金	9 時～17 時
土	9 時～16 時

(2) 閉室日

- ①日曜日、国民の祝日
- ②夏期一斉休暇期間：8 月 13 日～23 日
- ③年末年始休暇期間：12 月 29 日～1 月 5 日

4 活動概要

1) MS シートに掲げた活動

- ①教育：1. 主体的な学習姿勢の強化、1-1 学習ポートフォリオの導入・1-2 学生カルテの導入
管理・支援体制：4. 教育環境の設備の改善、4-1 学内ポータルシステムの確立

キャンパスメイトのリプレースが完了し、2016年4月1日稼動する。

- ②社会連携：3. 公開講座の活性化、3-1 近隣住民対象の公開講座実施と充実・3-2 神奈川県下の看護職対象の公開講座実施と充実・3-3 高校生対象の公開講座実施と充実
オープンキャンパスにおいて、模擬授業（8月、9月）を2回実施した。
- ③管理・支援体制：3. 防災対策の強化、3-1 緊急時防災マニュアル作成・3-2 避難訓練の充実・3-3 備蓄の整備
防災対策訓練を神奈川県防災センターにおいて、1・2年生の全員を対象に実施した。
防災備蓄品として、食事セット（一日3食分）、防災用シートを1・2年生全員、教職員人数分を購入した。
- ④管理・支援体制：6. 組織運営体制の強化、6-1 PDCA サイクルの一環としての教育研究年報の改善・6-2 IR に対する共通理解、認識の強化・6-3 IR 機能導入（2019年度までに導入する）
大学評価委員会と連携し、教育研究年報の改善計画を立案した。
IR システムの導入を行った。2016年度より稼動する。
- ⑤管理・支援体制：7. 財務上、法人との緊密な連携、7-1 支出を抑え、毎年度の予算を順守する。
教育環境への有効的活用に配慮し、年度予算内の執行に努めた。

2) その他の活動

- ①東海大学医療技術短期大学国家試験対策委員会規程を改訂し、同時に小委員会運用内規（新設）を定め、活動計画、費用概算、報告を義務付け積極的に取り組むこととした。
- ②デンマーク看護研修の見直し・充実を図るため、事務職員を研修団員とし、計画、準備、現地での実施状況・情報収集、帰国報告等に從事させ全体を取りまとめた資料を作成した。

5 評価（効果が上がった事項、改善すべき事項）

1) MS シートに掲げた活動

「4 活動概要」に記載した項目について次のとおり評価する。

- ①キャンパスメイトポータルシステムを導入し、学生・教職員間のコミュニケーションツールが確立したことにより、2016年度より学生の教育環境、指導環境の向上が見込めるものとなった。今後ポータルシステムの機能を十分に活用できるよう各委員会組織と連携し検討を重ねていく。
- ②オープンキャンパスにおける模擬授業は実施できたが、公開講座としての実施には至らなかった。特に高校生を対象にした公開講座をどのように企画していくか、総合看護研究施設とも協議し、分析・企画立案が必要である。
- ③防災訓練・備蓄品の整備が実施できたことは、今後の災害対策として前進できたと評価できる。しかし、その時の備えとして、学生・教職員の危機管理は不十分であるため、緊急時防災マニュアルの作成や、避難訓練の実施を早急に検討する必要がある。
- ④教育研究年報の改善計画を立案し、2015年度より教育研究年報に各委員会・組織の自己点検・評価の内容を記載することとなった。2016年度からの教育研究年報のあり方を方向づける

ものとなった。

IR システムの導入を当初予定より早く行うことができた。2016 年度より活用方法・組織化等検討し進めていく必要がある。

⑤ 今後は細かい部分にも配慮し、全学的な経費削減への意識付けも必要である。

2) その他の活動

短期大学各種規程等の一斉見直しを行い、組織としての管理運営強化に努めた。

教職協働に向けての事務職員の資質向上に努めたが、SD としてまだ組織的な活動が不十分である。

6 次年度及び次年度以降に向けて

MS シートに掲げた事項については、各委員会・組織と連携しながら「5 評価」の事項を具体的に進めていく必要がある。そのためには、各委員会に委員とし配された事務職員が各自プロ意識を持ち、意見を述べることができるよう研鑽を積むことが重要である。

今年度、SD 活動が活発に機能しなかったため、次年度以降、FD・SD 委員会委員を中心とし、活動する。事務職員の資質向上が事務室及び短期大学全体の機能向上につながるものとなるため、この点を重点事項として実施する。